

宮崎市の花

『花しょうぶ』について

宮崎花菖蒲協会 会長 高妻 一郎

宮崎市の花しょうぶ園は、阿波岐原森林公園『市民の森』約29ha内にあります。その栽培面積は43aで、160品種7万株が植栽され、満開になると約20万本の色とりどりの花（写真①）が咲き乱れます。



写真① 宮崎市花しょうぶ園

そして、その市民の森の中には古事記（日本神話）にも記載されているイザナギノ尊が「私は汚い国に行き大変汚れてしまった。禊をしよう」と言われて、祝詞にも出てくる「筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原」で禊ぎ祓いをされたという「御池」（みそぎ池）があります。そして、その近くにはイザナギノ尊を祀る江田神社があり、その江田神社には古事記に語られている禊ぎの聖地が古くからあったことが判っています。

市民の森の花しょうぶは明治百年記念事業として昭和43年に宮崎市の花として制定され、以来、花しょうぶを愛する34名の会員で愛育会を発足させたのですが、高齢化に伴い会員も減少したことから、平成14年に宮崎花菖蒲協会に改名し、随分と若返りも果たして実動員23名で活動しています。

昨年から協会で、67品種300鉢を会員共同で栽培管理し、市が主催する花しょうぶ祭と並行して、園の一角に展示会場としてテントを張り、低テーブルの上に赤絨毯を敷き120鉢を展示しました。（写真②）



写真② 展示会場

会員が当番制で品種の違いやショウブ等との違い、また、株分栽培等を丁寧に説明し、更に希望者にはセミナーを開催するなど、大変好評を得ることが出来ました。（写真③）



写真③ セミナーの様子

今年は期間中の園への見学者は14,488名で、内、私ども展示会への観覧者は3,115名を数え、予想を上回る反響に驚きを隠せず、大変な賑わいを見ることが出来ました。